

# 学びだより

和泉市立信太小学校  
授業改善担当 辻川翔太  
令和4年12月6日  
第6号

『夢中で学ぶ子』

～進んで対話し、根拠をもとに自分の考えを豊かに表現する力を育む授業づくり～

## 6年生 算数「比例の利用」

11月25日（金）5時間目に、6年1組で算数の研究授業を行いました。単元は「比例・反比例」です。この日までに、伴って変わる2つの量に着目しながら「一方が□倍になれば、もう一方も□倍になる」など、比例の変化について学習してきました。当日は、日常生活の場面で「比例を利用」する学習でした。問題文は次の通りです。

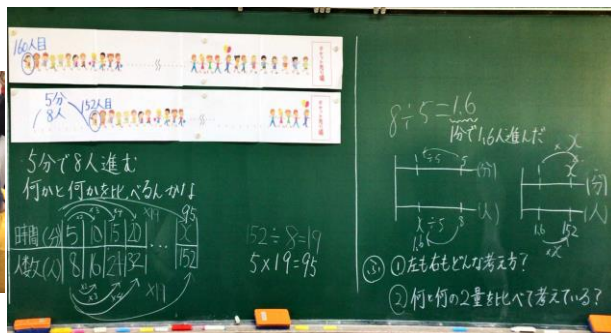
USJの入場券を買うために並んでいます。並び始めたときは160番目でした。あと、何分後に入場券を買うことができますか？



問題が示されると、子どもたちから「1人がチケット買うのにかかる時間が知りたい」「進んだところまで何分たったか知りたい」「160人から今おるところまで何人減ったんやろ？」など知りたいことや気になることをつぶやく声が聞こえてきました。問題文は情報が不足しているので、解決するために必要な情報を要求しないといけません。

このつぶやきは、「時間」と「人数」という、伴って変わる2量の関係に着目したつぶやきです。子どもたちは日常生活での経験を想起し、直観的に2量の関係に着目していました。先生から「5分後」であることを伝えられると、「5分間で8人進んだってことは・・・」と、思考しはじめました。

その後、自分たちで見いだした「時間」と「人数」を表に整理したり、困った時は仲間に尋ねたりしながら学習を進めていきました。進んで対話し、表・図を根拠にしながら考えを伝え合う姿が見られました。



さて、算数では、「問い」や「気づき」「発見」を大切にしてほしいと思っています。問題場面に自ら働きかけて「問い」を見いだしたり、黒板や仲間の言葉から情報を拾うことで、今まで気づいていなかったことに気づいたりする力をつけてほしいのです。それは、先生から出された問題や問いに答えたり、ドリルや計算プリントでいっぱい正解したりすることだけを目的にしているとはつかない力です。星座で例えてみます。

みんなと夜の山に登ります。そこには星がたくさん見えます。すると、だれかが「100個くらいあるんじゃない?」「電気ついているみたい!」「あの星だけ黄色いよ」など、問いや気づきをつぶやき始めます。それを聞いて「ほんまや!あの星は他の星の色とちょっとだけちがうね」という声が聞こえます。「見て!あそこに星が3つならんでいるよ」という人が出てくると、「えっ、その3つとあの黄色い星ってつながっているように見えない?」という考えが返ってきます。「なにかの形に似てない?」と、自ら問いを生み出す人も出てきます。このように、星を見ることに熱中して、自分で「問い」「気づき」を生み出し、仲間の言葉も大切にしていきます。そして、そのクラスだけの星座を「発見」していきます。先生は一言も「星座を見つけよう」なんて言っていません。みんなが「星」と「仲間」に関わろうとして、自分らしく「問い」「気づき」をつぶやくことで、そのクラスらしい星座が生まれるのです。先生の仕事は、前の日に星を空に並べていくことです。

あくまでも例え話ですが、問いや気づき、発見を大切にしているクラスの姿だと思います。ここで必要なのは「星(教材)」や「仲間の声」に自分から関わろうとすることです。それが、自分たちの星座を生み出しているのです。

今回、6年1組の教室には「何分たったのかな?」と問いを見いだす姿、表に整理しながら「比例している!」と気づく姿、そして、その問いや気づきを自分なりの言葉で自由に表現する姿がありました。その姿は、まさしく「夢中で学ぶ姿」と考えています。

研究授業の後には、教員がグループごとに分かれて、「この時間でつけたかった力がついたか」「どのような学び方をしていたか」「今回の6年生の学び姿を信太小6年間のゴールの姿とした時に、担当学年・教科で何を大事にしていくのか」等、意見交流しました

【事後研での先生方の話より】

- 子どもたちが自分の考えをつぶやき、伝えようとしている様子。先生が子どもたちのつぶやきや考えをつないで、広げ、再度考えを進めるようにと関わる姿に「すごい」と思いながら見せてもらいました。
- 学習に対する意欲が本当に高い!信太小の目指すべき子どもの姿がありました。

気づいたことを自由に自分らしくつぶやくことができる、誰のつぶやきも大切にされる。そんな親和的な雰囲気がある教室は幸せですね。今回の6年生の学び姿を目指し、下の学年から丁寧につなげていきます。

これからの時代を生きていくために必要な力は、自分で黒板にある数字や言葉、図、そして仲間の言葉と関わりながら自ら「問い」を見だし、自分なりの「気づき」や「発見」を生み出していく力です。そういう力を育むために、どうか「正解」「不正解」だけにこだわるのではなく、自分なりの気づきや発見を大切にしてほしいです。

「自分で課題を見つけ、仲間と協力し、話し合いながら、問題を解決する力」が求められるこれからの時代に必要な力そのものです。

